

多胎胎盤における吻合血管検索の試み

○宮下 百代,若井 公子,中村 雄策(群馬県立小児医療センター)

【目的】

多胎胎盤の病理検索に「吻合血管の有無」があるが、ホルマリン固定後の病理組織診断において吻合血管を証明するのは困難である。そこで、今回、ホルマリン固定前の臍帯血管内に色素を注入する手法について検討した。

【予備実験】

- (1) 色素の選択
- (2) ホルマリン固定前の胎盤の保管条件の確認

【方法】

予備実験をふまえ、中性ホルマリン緩衝液で約 5 倍希釈した色素を産科医が臍帯血管に注入し、肉眼的に観察し吻合が疑われる部分を撮影記録後、ホルマリン固定。病理医が固定前の写真および実際の血管走行等から疑い部分の切出しを行い、通常処理を施し標本とした。

なお、色素は青、赤、緑および黄の 4 色を用いた。分娩当日に色素注入が出来ない場合は、胎盤を冷蔵保管し後日注入を行った。

【結果】

- 症例 1 動脈－動脈吻合確認
症例 2 動脈－静脈吻合 動脈－動脈吻合確認
症例 3 静脈－静脈吻合 動脈－動脈吻合
動脈－静脈吻合確認
症例 4～6 吻合血管確認できず

【考察】

今回色素の注入を行った 6 例中 3 例で何らかの吻合血管が確認された。しかし、一絨毛膜双胎のほぼ 100%に吻合血管が存在すると言われていることから、今回の症例の半数では見落としのため吻合血管の確認ができなかったものと思われる。

要因として、色素の注入が不十分であったこと、深部吻合血管の発見の視点での観察が充分ではなかったこと、胎盤全体を標本作成し鏡検したわけではないことが挙げられる。

今後も意義のある検査結果を臨床に返せるように検討を続けたい。

連絡先：0279-52-3551（内線 2410）